

合格のためにー製図試験.com マニュアル

ver.221128
製図試験.com

製図
試験
.com

合格からの逆算—図面添削できる力を身につける「学び」へ

合格するために何が必要なのでしょうか。

製図試験 com の山口です。この度は、数ある製図試験サイトの中から製図試験 com のこの合格マニュアルにたどりついていたいただき、心からお礼申し上げます。さて、早速ですが、あなたが合格するために、どのような力が必要だと考えていますか。そしてそれはどのように身につければよいのでしょうか。私たちと共通のゴールとしての合格を見定め、合格から逆算することが、最初に行っておくべきことです。どうすれば合格できるのか、そのラインは一体どのあたりにあるのかが不明な学習は、羅針盤もレーダーもない航海のようなものです。まずその設定を確定することが合格への第一歩です。

必要な 5 つの実技能力—読解力・エスキース力・作図作文力・チェック力・時間管理能力

製図試験は、1 問を 6 時間 30 分かけて解くという試験形式です。そのために問題文を精緻に読む読解力、その読解からプランを組み立てるエスキース力、それを表現する作図作文力がその基礎となります。そのうえで、完成した答案のエラー抜きを行うチェック力、そして 6 時間 30 分をコントロールする時間管理能力が不可欠です。その 5 つの実技能力をバランスよく備えていないと安定した合格ラインに入ることは難しいですし、またその逆も真なりです。2 月からスタートする様々な課題によるスキルアップの先に、この 5 つの実技能力を鍛えるという視点を一時も忘れることなく、精進すること = 合格からの逆算となります。そしてこの 5 つの力を下支えするのが、次の 3 点です。

1) ミスを最小限にする繊細さ

製図試験は、かつてのざっくりした様相は影を潜め、難問ではなくなりましたが、平易になった代償として、小さなミスひとつで不合格になる試験と変貌しています。人間誰しもミスはしますが、そのミスをミスとして見つけ出し、最小限に抑えられる繊細さが現在の試験には求められています。それはポイントを外さない集中力という表現になるかもしれませんが、ひとつひとつを大切にステップアップできる器用さという表現になるかもしれません。

普段は、集中力も器用さもあまりないという方にとっては過酷な試験となっていますが、難しくはないんです。製図試験に向き合うとき、指示されたことを淡々とそつなくこなす繊細さを常に意識していきましょう。

2) 動じない俯瞰できる図太さ

その一方で、試験当日にはこれまで観たことないような試練が待ち構えているケースがあります。繊細さとは真逆ですが、そのときに動じない、全体から俯瞰できる図太さが求められます。合格する者、強くあれ、図太くあれ、と願っています。これも日々の課題をこなす中で、本試験をイメージしつつ逆算して位置づけられるのかで大きな差となって蓄積されます。

3) 担保するのは自信というメンタル

合格の一点にフォーカスし、繊細さと図太さを手に入れることを意識しつつ、基本となる 5 つの実技能力を身につけた者が得られるものが「自信」というメンタルの強さです。強き者をくじき、弱き者を助けるようなメンタルを鍛え上げることが、全カリキュラムを通じた最終目標です。その一点を見つめて日々は精進すべしということが、合格からの逆算となります。

まだ完成バージョンとは言えない「合格のために—製図試験 com マニュアル」ですが、2023 年度が始まる 12 月 27 日に向けて、日々内容を深めてまいります。

2022 年 11 月 28 日

製図試験 com 代表：山口 達也

製図試験.com 3つの特徴

2023年度の製図試験.comは、多くの受験生から選ばれてきた内容をさらにバージョンアップして、下記の3つの特徴を掲げました。

1.100%オンラインで学べるスクールパッケージ

製図試験.comがこだわっていること。それはあなたが自身を持って試験に臨めるためにはどうすればよいのか、ということです。そのためには、あなたが能動的に学んだ！努力してきた！力をつけた！と実感できることです。そう確信していただけるようカリキュラムをさらに見直し、多忙なあなたのスキマ時間を使って学習できる環境を提供します。それは資格学校の代替案ではなく、資格学校にはない100%オンラインで学べるというスクールパッケージを作り上げることでした。その特徴をご紹介します。

(1) エスキースをステップで学べるカリキュラム

図面だけを添削しても、その過程の間違いを指摘しないと修正できません。しかし資格学校は残念ながらエスキース手順を教えることができません。そんな面倒なことは教えられないからです。製図試験.comでは発足当初からエスキース手順を確立し、また細分化して解説した「ステップで攻略するエスキース」（学芸出版社刊）があります。更に手順は年々バージョンアップしており、2023年度も製図試験.com基礎講座でみっちり解説します。

(2) 添削方法を学べるカリキュラム

2023年度から「答案図面を添削できる能力を身につけられる」カリキュラムとして、製図試験ローカルルールブック（製図試験上の設計ルール）を使った添削のポイント学習と、添削手順（プロトコル）＝図面チェック手順を身につける基礎講座及びワークを設けることとしました。この技術を身につけると添削講師となれるレベルをめざしています。

(3) 気軽に質問できてかつ即答するシステム

コミュニケーションツールとして、LINE ライクな BAND、ZOOM、新たにラーニングボックスというアプリを導入します。もちろん、電話、メールでも気軽に質問していただけます。例えば、「二方向避難がわからない」→「どの部分がどうわからないのか今から zoom しましょー」こんな感じです。特別な状況がない限り、即答しています。

(4) すべての添削図面を共有する集合知

シークレットにして欲しい受講生を除くすべての図面とその添削図をメンバーズサイト上で共有しています。原則すべての情報を共有することで、全体の状況や他受講生のミスから学べることが多いからです。これは集合知となって、全体のレベルを上げていく必要不可欠な方法であると考えています。

(5) 必要にして十分な問題数

昨年まで問題数を絞って年間 15 題くらいで指導していたのですが、問題数が少ないことで不安になる方がおられるということで、2023年度は 25 課題に増強します。全課題を解く必要はなく、添削としては前半戦 10 課題、後半戦 10 課題分とし、あとは実費オプションとしました。

(6) アクティブラーニングを用いた講義

資格学校と異なり、製図試験.comでは、事前に問題を解いておき、解いた受講生同士がディスカッションしたりプレゼンするところから講義やワークを行います。会議の前に資料を読んで議論から始めるのか、会議で始めて資料を配るのかの違いだとお考えください。

(7) 完全 PDF 対応も可能

海外からの受講生も毎年おられます。紙ベースではなく、PDF でのやり取りのほうがよいという受講生も少なくありません。そこで 2023年度から希望者には完全 PDF 対応することとしました。また郵送がなくなるため、費用の割引も行います。（加えて PDF はフルカラースキャンサービスを行うことになりました）

(8) BIM-Revit を使った 3D 解答例

3次元で空間把握できるよう全てではありませんが、BIM-Revit を使った 3D 解答例をアップしています。また製図試験には関係ありませんが、Revit のスクールも別途行っています。

2.小回りの効く融通性ある組織

製図試験 com は、代表である私（山口達也）の私塾として、23年にわたって運営しており、いい意味でも悪い意味でも小回りの効く融通性のある顔が見える組織です。問題文の折り・発送から解答例の作成、質問の受け答えまで、多くは私が絡んでいます。また添削する講師とも連携がとれています。2023年度は、最大でも150名までとし、全員の顔が見える運営に努めてまいります。

3.リーズナブルな価格構成

前述したように小さな組織ですから、営業マンもいませんし、大きな教室の家賃もありません。そういった経費を除いた分、内容にかかわらず、大手資格学校では決して実現できない価格構成となっています。

この資格にかけられる年額は、給与の1-2ヶ月分が上限だと思います。それ以上は掛ける試験ではない。ということで十分な学習アイテムと内容を最大化し、かつ費用を抑えてパッケージ化し、年間で30万円をひとつの目安としています。（P6参照）

Cf：重要な経験値を上げる方法

減点法で採点される製図試験で合格するためには、いつも最低点はキープできること、そのために弱点をなくす学習方法が求められています。しかも短期決戦でその力を身につけねばならないとした場合、短い時間で弱点を克服することが不可欠となります。

そのための重要なノウハウとして、「細分化」してできるようになるまで学習することをおすすめしています。

例えば、動線図を描くのが苦手、といいつつ、これまで動線図だけを集中的に練習したことがあるでしょうか。描けるようになるまで練習してきたでしょうか。エスキースのときに1回だけ描く、つまり課題数しか動線図を練習してこなかったのではないのでしょうか。

結局、本試験で動線図が甘かったために不合格になったとしても、なんとなくできなかったということで、また翌年、一生懸命、1問1問を丁寧にジック市時間をかけて解く、まではいいんですが、再び動線図が穴のままではそこから不合格への道が開いたままの学習をしていたということになっているわけです。

製図試験 com ではエスキースを13ステップに細分化し、それぞれを徹底的に理解し、考え、さらに自らの手法として固めていただくことをひとつの手段としています。弱点がわかるまで細分化し、それができるようになるまでトライする。この方法を身につけると、様々な目前の問題点も、できるようなところまで細分化してこなしていくという手法として使うことができるようになります。これが製図試験の醍醐味だとも思っています。

Cf：本来は楽しい建築計画

製図試験は、いよいよ制度疲労を起こしており、中味が空洞化していますし、その空洞化していることを暗記する体力勝負のような資格学校のやり方では、学習するモチベーションをキープすること自体がもう修行レベルだと思われます。

ですが、本来、2,000m²級の基本計画を年に20も30もやれること自体、実は生涯に経験できないような貴重なものです。製図試験 com では少なくとも設計する楽しさを共有しつつ、学べる環境づくりをしたいと考えています。

合格スケジュール

製図試験.com年間攻略スケジュール

ver.221118

項目\日程	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	備考	
	前半戦						後半戦					
	ESTEP	FP	公共施設課題			基礎	補強	直前				
自己分析課題	○										問題文無料公開	
ESTEP基礎講座		○					○				7月は動画学習	
フリープラン講座			○				○				7月は動画学習	
前半戦通信添削3課題				1	2	3					課題配布とオンライン添削あり	
シンクロ二模試							○				6時間30分一式	
オープン課題							○				問題文無料公開	
後半戦通信添削4課題								1	2	3	4	課題配布or課題添削コース
通信添削変形課題								R	R	R	R	各課題の条件変更課題
基本問題集									○			3課題を予定
シンクロ二模試											○	6時間30分一式
他社分析課題A/B											○	2課題を予定
総まとめ											○	まとめ資料と解説
ガイダンス	○						○					何でもお答えします
セミナー（東京・大阪・O/L）		○	○	○	○	○		○	○	○	○	計10回程度を予定

前半戦：基礎づくり（10 課題）→隔週ペース

前半戦の目標は、エスキース手順と添削手順の理解、3 時間作図、プランニングパーツの構築、です。

自己分析課題

まず、1 月中に自己分析課題を行い、何が足りていて何が足りないのかについて、自己分析を答案とともに確認します。あなたとの共通目標を明確にすることが合格するための最重要課題です。

製図試験 com 基礎講座

まずステップエスキースをベースに、製図試験のローカルルールを解説しながら、問題を解くというプロセス学習をします。製図試験の問いの立て方を分析的に解説します。とともに自己分析課題を使って、添削する添削ワークショップを行います。条件が与えられなくてもプランできる設計力が近年求められています。3 月は、R01「美術館の分館」を使いつつ、フリーでプランする演習 = フリープラン講座を行います。

自己分析をし、その上で分析的に解けることとチェックできる基礎を学び、フリープランに挑戦するというまでを基礎としました。

徹底的に公共施設系課題

4 月からは、過去問題を織り交ぜつつ、全てコミュニティ施設でこれまでの基礎を磨く7 課題を隔週で行い、前半戦のまとめとして、前半戦シンクロ二模試を行います。

再度書きますが、前半戦の目標は、エスキース手順と添削手順の理解、3 時間作図、プランニングパーツの構築、です。

後半戦：2023 年本試験対応（15 課題 + 類似過去問題）→毎週ペース

課題発表とともにオープン課題を公開します。その後、4 添削課題 + 4 課題変形課題を毎週出題します。またお盆前後に、2023 年度課題解説テキスト「課題分析帖 2023」とパーツ集、基本問題集 3 課題を送ります。

8 月末までの基礎期間の目標も、エスキース手順と添削手順の理解、3 時間作図、プランニングパーツの構築となります。

9 月からは弱点補強に特化し、9 月末にシンクロ二模試を行います。その上で最終、他社分析課題 2 課題予定しています。試験対策としては、できるだけ平常心でどう臨めるのか、という点を共有してまいります。

□スケジュール詳細 (ver.221118)

現時点での全スケジュール予定です。

Term	NO	月日	カリキュラム	内容	備考	
前半戦	ESTEP 基礎	1	1月7日	自己分析課題	実際の現状把握をします	後日動画 受講可能
		◇	1月21日	読解－フリープラン学習	平日毎日30分程度ワーク	
		◇	1月28日	読解－フリープラン学習	平日毎日30分程度ワーク	
		◇	2月4日	読解－フリープラン学習	平日毎日30分程度ワーク	
		◇	2月11日	読解－フリープラン学習	平日毎日30分程度ワーク	
		◇	2月18日	読解－フリープラン学習	平日毎日30分程度ワーク	
		◇	2月25日	読解－フリープラン学習	平日毎日30分程度ワーク	
	FP	2	3月11日	過去問題(R01/10)	美術館の分館	
		◇	3月18日	フリープラン「美術館の分館」	美術館の分館	
		3	3月25日	過去問題(R01/12)	美術館の分館	
公共施設 課題	4	4月16日	第1課題	コミュニティセンター※1		
	5	4月30日	過去問題(h19)	子育て支援施設のあるコミュニティセンター		
	6	5月14日	第2課題	コミュニティセンター※1		
	7	5月28日	過去問題(h28)	子ども・子育て支援センター		
	8	6月11日	第3課題	コミュニティセンター※1		
	9	6月25日	過去問題(h30)	健康づくりのためのスポーツ施設		
	10	7月9日	前半戦シンクロニ模試	コミュニティセンター		
後半戦	基礎 構築	■	7月23日	学科試験(課題発表)	21日頃課題発表予定	
		1	7月24日	オープン課題	即日公開課題	
		2	7月30日	第1課題	本試験モード課題	
		3	8月6日	第1課題R	第1課題変形課題	
		4	8月13日	第2課題		
		◇	8月13日	夏期講習会	東京・大阪・オンラインで予定	
		5	8月20日	第2課題R	第2課題変形課題	
	弱点 補強	6	8月27日	第3課題		
		7	9月3日	第3課題R	第3課題変形課題	
		■	9月7日	学科試験合格発表		
		8	9月10日	第4課題		
		9	9月17日	第4課題R	第4課題変形課題	
		10	9月24日	後半戦シンクロニ模試		
		直前	11	9月27日	他社分析課題A	資格学校A傾向分析課題
12	9月27日		他社分析課題B	資格学校B傾向分析課題		
◇	10月1日		まとめ+R			
■	10月8日		製図試験	10月8日の予定		

※：■JAEIC◇製図試験 com 番号課題 NO 前半戦は隔週、後半戦は毎週出題します。

※：添削は前半 10 課題分、後半 10 課題分を含んでいます。11 枚目以降は別途費用で受付します。

※：日曜日ベースで作成していますが、金曜日までに課題は郵送します。直接塾は大阪土曜日、東京日曜日予定です。

※1：前半戦は公共施設としてコミュニティセンターのみで基礎を固めます。

学習アイテム解説

テキスト・教材

無料メールマガジン ステップで攻略するエスキース（学芸出版社刊）



製図試験 com 基礎講座

製図試験ローカルルールブック教材

（製図試験ルールのすべてが分かる wikipedia のような内容を予定しています）

パーツ集 + 解説メールマガジン + 解説動画（30 本程度）

Udemy オンライン 3 講座（6 時間程度）

課題構成

課題は、問題文 + 答案用紙 + エスキース用紙 + 解答例 + 解答例エスキースが一式のセットとなっています。

（ただしオープン課題、問題集、他社分析課題については、一部省略することもあります）

添削は通期 20 回分、後半戦 10 回分が含まれています。（それ以上は別途費用が必要です）

前半戦：10 課題（自己分析課題・3 課題・模試・過去問題 5 課題）

後半戦：15 課題（オープン課題・4 課題（+ 変形課題 4 課題）・模試・他社分析課題 2 課題・問題集 3 課題他）

講義：ZOOM（1 課題につき 1 時間程度、昨年実績 20 時間）

2023 年度課題分析帖 + まとめ資料 用紙、サブテキスト、その他製図道具等

コースと費用

製図試験 com コース費用一覧表

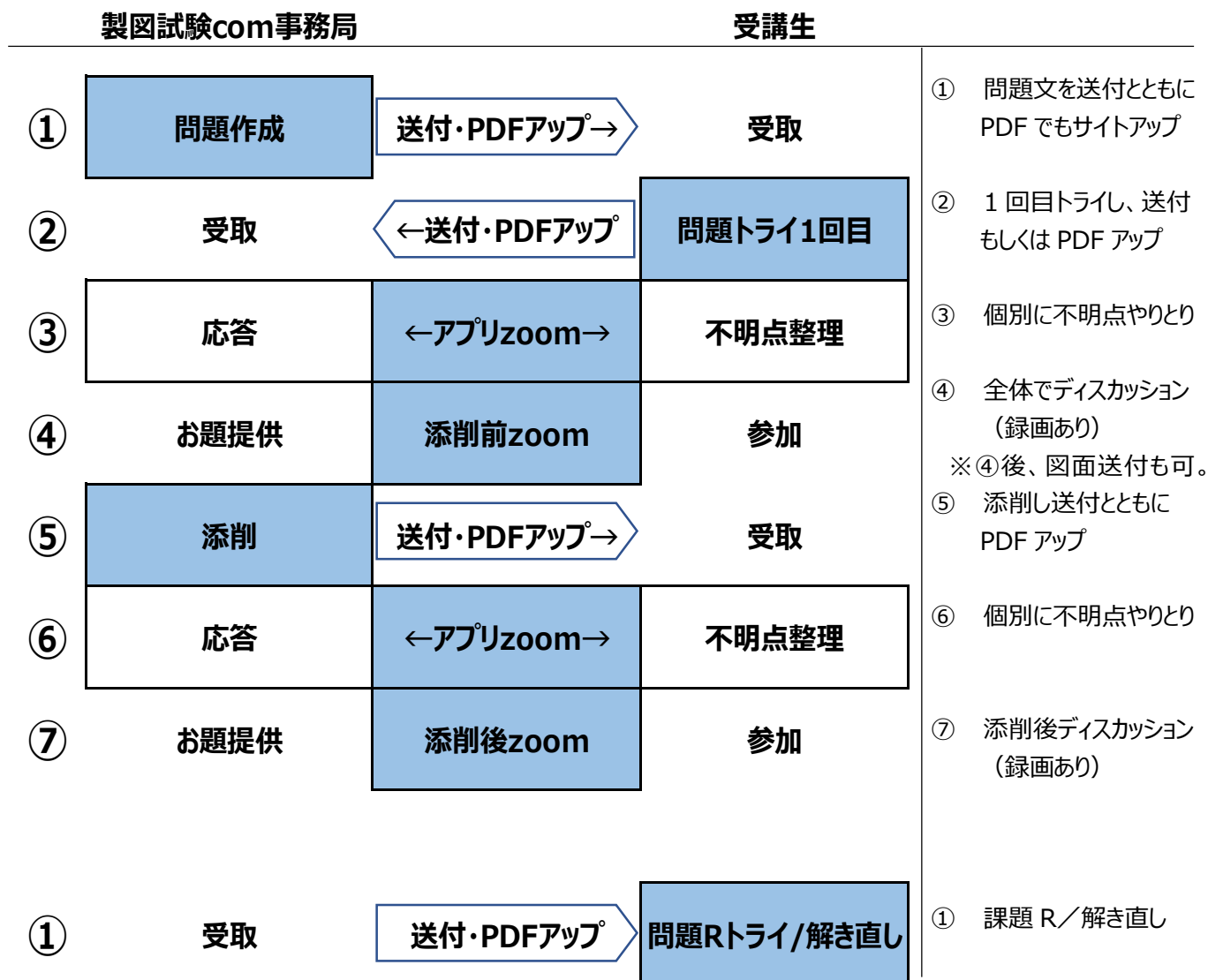
ver.221128

コース	項目	基礎講座	教材前半戦	教材後半戦	前半戦添削	後半戦添削	前半戦通学	後半戦通学	費用税込	既添削生費用税込	備考
通期（前半戦 + 後半戦）											
	製図試験com基礎講座	■							54,780	34,780	全員受講必要
	コース1教材コース	■	■						162,800	132,800	教材のみ添削なし
	コース3 オンライン添削コース	■	■	■	■				327,800	287,800	教材・添削込
	コース4 通学塾コース（東京・大阪）	■	■	■	■	■	■		437,800	387,800	通学10回込自主ゼミあり
後半戦のみ											
	製図試験com基礎講座	■							54,780	34,780	全員受講必要
	コース1教材コース	■	■						107,800	87,800	教材のみ添削なし
	コース3 オンライン添削コース	■	■	■	■				217,800	187,800	教材・添削込
	コース4 通学塾コース（東京・大阪）	■	■	■	■	■	■		327,800	287,800	通学5回・自主ゼミ5回込

- ・基本を押さえるために 2023 年度は基礎講座を必須としています。
- ・自学自習できる方は教材コースを、添削が必要な方はオンライン添削コースをご選択ください。
- ・東京・大阪では、スクーリングを行います。スクーリングご希望の方は通学塾コースをご選択ください。
- ・コース 1/3 において紙ベースは一切不要で PDF のみで良い方は、さらに通期 1 万 5 千円、後半戦 1 万円減額します。
- ・添削は前半戦 10 回分、後半戦 10 回分、計 20 回分の費用となっています。前半戦の分を後半戦には使えません。
- ・追加添削はコース 1 で 11,000 円/課題、コース 3 で 5000 円（税込）です。添削への質問は常時受け付けています。

オンライン添削イメージ

オンライン添削は下記のような手順をイメージしています。例年、個別指導を活用される方が半数くらいしかおられないので、2023年度は、できる限り、活用していただけるよう、不明点整理を行えるような手順を意識して作成しています。



製図試験.com ご紹介

名 称：製図試験.com

(<https://seizushiken.com>)

運 営：有限会社 I.L.D.教育事業部

大阪事務局

〒554-0012

大阪市此花区西九条 2-7-8 田丸ビル 3 階

電話 06-7181-3701 FAX 廃止

メール：guchi@seizushiken.com

銀 行：Paypay 銀行すずめ支店

普) 3175127 コ) アイエルディ

郵便振替：00970-2-222802 コ) アイエルディ

関連サイト：FB <http://facebook.com/seizushiken/> ツイッター <http://twitter.com/seizushiken/>

東京講習会場：現在、主に instabase を使って、御茶ノ水－飯田橋近辺の会議室を利用しています。。



代表：山口 達也 (ハンドルネーム：曾根 徹)

1962 年 11 月 26 日生

大阪工業大学建築学科都市計画研究室

神戸大学環境計画学専攻、工学修士 (早川和男研究室)

阪神電鉄就職後、レンゾピアノビルディングワークショップに転職。

都市計画コンサルタント、経営コンサルタント、CM 会社等を経て、

有限会社 I.L.D. を設立。セルフビルディング中心に設計活動の傍ら、

2000 年に「学科製図.com」を設立。

22 年間で 3,000 名の一級建築士を輩出。

2015 年コンテンツをまとめなおし、「製図試験.com」を立ち上げ。

一級建築士設計製図試験だけに特化したしくみを開始。

業界初のオンライン添削・ZOOM ウェビナーを開始。

2018 年より学科試験.com も同時に主宰。

このテキストは 2022/11/28 現在のものです。コンテンツの無断利用は固く禁じます。Copyright ©製図試験.com All rights reserved.